

「建国記念の日」によせて

祝日の好きな人

多くの国には、「**建国記念日**」と名付けた祝日が定められています。その付けた名も「建国記念日」に限らず、「独立記念日」、「革命記念日」や「統一記念日」などと国により異なっています。今日の日本における2月11日（祝日）は、『**建国をしのび、国を愛する心を養う日**』という「**建国記念の日**」であって、「**建国記念日**」や「**建国の記念日**」ではありません。

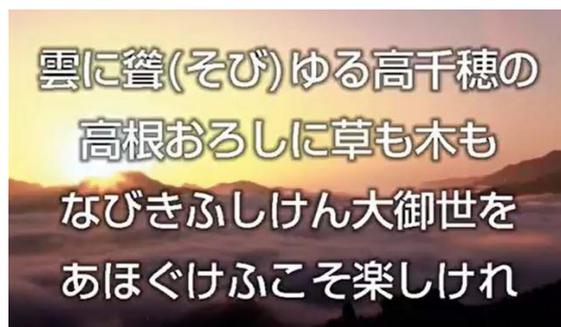
1. 建国記念日、独立記念日、統一の日など

(1) 日本：建国記念の日

「**建国の日**」は、戦前までは「**紀元節**」でした。「**紀元節**」とは、初代天皇とされる神武天皇が即位した日を紀元の初めとしたものです。神武天皇は、日本神話に連なる伝説上の人物であり、古事記や日本書紀に出てきます。そこには、神武天皇の即位日が紀元前660年1月1日とされていました。明治6年（1873年）、これを新暦に換算して2月11日を「**紀元節**」と定めて祝日と致しました。

しかし、第二次世界大戦後の1948年（昭和23年）に占領軍（GHQ）が日本文化から国家神道を徹底的に排除しようとする過程で廃止されました。その後、1951年頃から、「**紀元節**」を復活させようとする動きが保守派の中に高まり、立法化の動きがありました。でも当時は、天皇制に対して賛否両論がり、**紀元節**を残したい自民党と天皇制に関わるものを極力排除したい社会党とが激しく対立し、なかなかまとまりませんでした。

戦後20年以上が過ぎた1966年（昭和41年）になってようやく、「**建国記念の日**」を祝日とすることが決まりました。日にちは、その後、政令で**紀元節**と同日の2月11日と定められました。「**建国記念の日**」は、「**建国の記念日**」ではなく、『**建国をしのび、国を愛する心を養う日**』なのです。



「**紀元節**」の歌詞（明治時代の唱歌）
歌：山口采希 「**紀元節**」

(<https://www.youtube.com/watch?v=cFpILGs4nPE>)

沖縄の那覇市にある首里城に、昨年 2019 年 10 月 31 日に大規模火災が発生し、正殿などの主要施設が全焼しました。この首里城は、琉球王国の政治、外交、文化の中心であり、その象徴でした。琉球王国は、今から約 590 年前（1429 年）に成立し、約 140 年前（1879 年）までの間、約 450 年間にわたり、沖縄を含め日本の南西諸島に存在した王制の国でした。1429 年からの 450 年間は、本州の歴史でいうと室町時代、戦国時代、江戸時代、明治 12 年までの長い間に相当します。



首里城：正殿正面
昨年 2019 年 10 月 31 日に全焼

琉球王国には、以下の歴史があります。江戸時代慶長 14 年（1609 年）に日本の薩摩藩が 3,000 名の軍勢をもって琉球に侵攻し、首里城を占拠しました。それ以後 270 年間にわたり琉球王国は、表向きは中国の支配下にありながら、内実は薩摩と徳川幕府の従属国であるという微妙な国際関係の中で存続していました。しかし、やがて日本の明治維新により成立した日本政府は、1879 年（明治 12 年）軍隊を派遣し首里城から国王尚泰（しょうたい）を追放し、沖縄県の設置を宣言しました（いわゆる、琉球処分）。ここにおいて、琉球王国は滅亡したのです。

1942 年にアメリカ軍と戦争をした日本ですが、その戦争は沖縄県も含めて激しい戦争となりました。特に沖縄戦については、祖国防衛の名のもとに、あの悲惨な沖縄戦闘を強いていたという見方があります。そして、終戦の 1945 年（昭和 20 年）からアメリカ軍による沖縄の占領が始まり、1972 年（昭和 47 年）の本土復帰に至るまでの、27 年間に及ぶアメリカ合衆国による統治下がありました。復帰後も、多くの米軍基地が日米安全保障条約にもとづく基地として引き継がれています。具体的には、日本の国土面積全体の 0.6% にすぎない沖縄県に、在日米軍専用施設の約 70% が沖縄に集中しています。沖縄本島の約 15% を米軍基地が占めています。

沖縄の人にとって、琉球処分、沖縄戦、沖縄占領、多数の米軍基地の残留などを強いてきた政党の流れを受け継ぐ現政府が主催する「**建国記念の日**」は、必ずしも手放して祝える祝日にならないのです。

沖縄には、沖縄県観光事業協同組合が制定した「**琉球王国建国記念の日**」2 月 1 日があります。2 月 1 日が建国記念日となっているのは、『1425 年中国、明王朝の宣徳帝（せんたくてい）が琉球王国の尚巴志（しょうはし）を王として認定した書簡が琉球の交易記録書「歴代宝案」の中にあり、2 月 1 日と記録されている。』に基づいています。一般に伝わっている建国年 1429 年より 4 年ほど早い記述になっています。

(2) アメリカ：独立記念日

アメリカでは、1776年にアメリカ独立宣言が公布されたことを記念して、毎年7月4日を「独立記念日 (Independence Day)」としています。イギリス領の北米東部沿岸の13植民地が、1776年にイギリス本国からの支配を拒否して独立を宣言し、独立戦争(1775年4月～1783年9月)を経て、アメリカ合衆国として政治的に独立をしたのです。ミシシッピ川から東にいた先住民族の大半が、この独立戦争に巻き込まれました。多くの部族社会は戦争へのかかわり方を巡って分裂することになりましたが、それまでアメリカの開拓者からの侵略に曝されていたために、先住民の多くはアメリカと敵対する道を選択、つまり、イギリス側で戦いました。



アメリカの独立宣言：署名の場面
(ジョン・トランブル画)

アメリカ独立宣言には、「すべての人間は生まれながらにして平等であり、……。」と謳われています。しかし、ここで言う「すべての人間」とは、白人男性のことで、決して黒人やインディアンはもちろん、女性も含まれていませんでした。1776年の独立宣言後も黒人奴隷は依然として残されました。エブラハム・リンカーン大統領が「奴隷解放宣言」を布告したのは、南北戦争中の1863年(独立宣言から87年経過)です。この宣言においても連邦に忠実な奴隷州の奴隷は除外されていました。憲法修正第13条の1865年の発行により黒人奴隷制の廃止は確定しましたが、なお黒人差別は一掃されていませんでした。選挙権などの差別を無くす公民権法が成立したのは、1964年になります。

アメリカの黒人住民は、2009年のバラク・オバマ氏の大統領就任というように少しずつですが着実に政治的・社会的に受け入れられるようになってきました。確かに法的には彼らの差別は無くなりましたが、現実社会の中では今なお根強く残っているとされています。

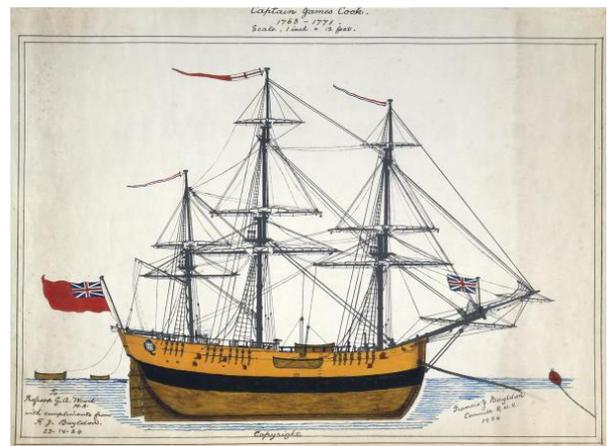


バラク・オバマ氏
アメリカ合衆国第44代大統領
(2009年1月20日～2017年1月20日)

(3) オーストラリア：オーストラリアの日

オーストラリアでは、毎年1月26日が「**オーストラリアの日 (Australia Day)**」となり祝日になっています。ただし、祝日の日付は、振替になったり、州により異なったりしています。1788年にイギリスの入植団が初めてオーストラリア大陸に上陸した1月26日を記念日としたのです。しかし、約6万年前から住んでいた先住民アボリジニ（アボリジナル）に対しては、その入植団の上陸が植民地支配的な迫害の始まりだったと考えるオーストラリア人も多いのです。アボリジニの人々には、この日を「**侵略の日**」と呼び、祝賀には参加せず、抗議の行進を行う者が多いそうです。

1770年イギリスのジェームズ・クック（通称キャプテン・クック）がシドニーのボタニー湾に小型帆船エンデヴァー号をこの湾に停泊させました。同行していた博物学者ジョゼフ・バンクスやダニエル・ソランダーが上陸して多くの植物標本を採集しました。ボタニー湾（Botany Bay：植物学湾）の名は、その採集された貴重な植物標本を記念して名付けられたものです。一行の最初の上陸地は、入植地およびイギリスの植民地の前哨基地にうってつけの候補地として、後に喧伝されました。そして、東海岸はニュー・サウス・ウェールズとクックによって名付けられていました。



キャプテン・クックが率いた帆船エンデヴァー号（長さ32m、幅8.9m）
（Francis Joseph Baylton による絵）

1780年代、イギリス国内では産業革命によって職を失った失業者が都会に集中し、そういった中から犯罪者が激増しました。当時は軽犯罪であっても収監するという法制度がなされていたのもあいまって、イギリス国内の収容施設はどこも満員という状況でした。これに加えて、これまで流刑地として利用してきたアメリカが1776年に独立したために、イギリスにとっては巨大な流刑地を喪失してしまうという事態に陥りました。新たな代替候補地として、当初は比較的イギリスに近いカナダや西アフリカが挙がっていましたが、カナダは寒冷地であるため、また西アフリカは疫病に罹患する恐れがあるため対象から外されました。その結果、オーストラリア東海岸のニュー・サウス・ウェールズが選ばれました。政府は、退役海軍将校アーサー・フィリップ（Arthur Phillip）を初代総督に任命し、植民地建設に当たさせたのです。

そして、1787年5月13日、上記のアーサー・フィリップ（艦長）が率いる11隻の第1船団は、1,500名弱の人員（うち流刑囚約780名）を乗せてイギリスのポーツマスを出航しました。翌1788年1月18日にボタニー湾に到着しましたが、聞いていたほど有望な上陸地ではないとフィリップは判断し、代わりに北へ数キロメートルのポート・ジャ

クソンへ移動しました。1月26日に第1船団の全ての艦船が到着し、アーサー・フィリップを初代総督とする流刑植民地が創設されました。この1月26日が「オーストラリアの日」と呼ばれる祝日になったのです。

このような歴史的経緯から、オーストラリアは各国に独自の大使を派遣し、大使館を構えているように、堂々たる独立主権国家でありながら、“外国人”である英国のエリザベス二世を国家元首にしています。1990年代初頭より、この立憲君主制度を廃止して、オーストラリア人を元首に戴(いだ)く共和政体へ移行すべきとの議論が活発化しています。

オーストラリアにおいて、「いつ独立したか」というややこしい問題があります。1948年まではオーストラリア国民は自動的にイギリス国籍を所有していたし、通貨が英国のポンドからドルになったのは1966年のことです。1975年までは、連邦最高法院の判決に不服な場合、英国の枢密院司法委員会に上訴することができました。したがって、明確な「独立記念日」はないのです。



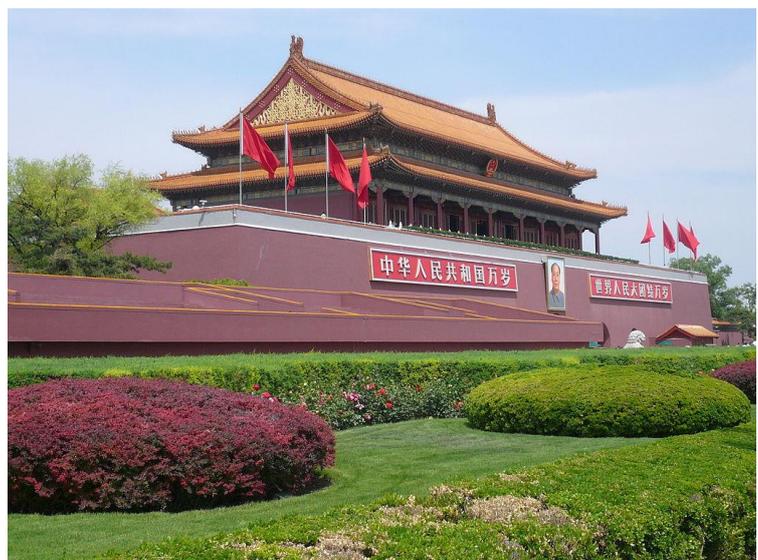
オーストラリアの国旗

旗の左上にイギリスとのつながりを象徴するユニオンフラッグを、旗竿の反対側に国土が南半球にあることを象徴する南十字星を、そして左下に6州1準州による連邦を象徴する七稜星を配している。

(4) 中華人民共和国：国慶節(こっけいせつ)

中華人民共和国の建国記念日に相当するものは「**国慶節**」の10月1日です。これは、1949年10月1日、国民党との内戦を制した中国共産党の毛沢東主席が中華人民共和国の建国を宣言したことにちなんでいます。2020年の今年で、未だ建国70年ほどの若い国なのです。

一方、国民党を率いていた蒋介石は台湾に逃れました。中華民国(台湾)においても「**国慶日(こっけいじつ)**」10月10日があります。これは、辛亥革命(しんがいかくめい;清(中国))



国慶節の記念式典が催される、天安門前広場

で発生した協和革命)の発端となった1911年10月10日の武昌蜂起(ぶしょうほうき; 武昌でおきた兵士たちの反乱)にちなんだものです。日付に「10」の数字が2つ並んでいるので「**双十節**」と呼ばれることが多くなっています。

一方、「中国3,000年の歴史」というフレーズもあります。「4,000年の…」とか「5,000年の…」とかの場合もあります。このフレーズにおいて、「中国」は中国の国家を主体としているのではなく、中国地域(中華地域)の歴史を主体としたものなのです。中華人民共和国(チャイナ)より前は、支那の時代でありたくさんの王朝が立ち、断絶しています。従って、「国家」である中華人民共和国を主体にすれば、建国の歴史は未だ約70年の経過なのです。

中華人民共和国は、国民の92%が漢民族であり、残りは55種類の少数民族から成り立っています。政府はこれらの少数民族に対し、自分たちの自治権を認めるという民族区域自治政策を行っています。しかし、新疆ウイグル、チベット、内モンゴルなどの自治区に対し政府からの人権弾圧などが問題視されています。

内戦の結果として新たな国が建てられた場合は、その内戦の敗者側の人たちにとって、その建国記念日は祝えるべきものにはなりません。また、現国家の政府弾圧などを受けている自治区の人たちにとっても祝えるものにはならないでしょう。

(5) ドイツ：ドイツ統一の日

ドイツの建国記念日に相当するものは、「**ドイツ統一の日**」10月3日です。28年もの間存在し続けた「ベルリンの壁」が1989年11月9日に崩壊し、翌年1990年10月3日に東西のドイツが再統一しました。その再統一の10月3日を「**ドイツ統一の日**」として国民の祝日にしました。今年2020年で未だ30年の経過です。



万里の長城

城壁は、中国が統一された秦の始皇帝の時代に、「匈奴(きょうど)」の侵略から領土を守るために建設され、その後、城壁は拡大と延長を繰り返し、明朝の時代に完成したといわれています。

2. 建国記念を国民みんなが祝えるか？

建国に至った経緯は国により異なりますが、その各国において「建国記念を国民みんなが祝えるか？」と問うと、そうでもないというのが現状だと思われます。

例えば、アメリカにおいては、イギリス本国からの支配を拒否し、「すべての人間は生まれながらにして平等であり、…」と独立宣言をして建国したのです。ここで言う「すべての人間」とは白人男性のことであり、そこから排除された黒人やインディアンなどにとっては、建国記念日は祝えないでしょう。また、オーストラリアなどのように建国当時に入植者達から迫害を受けた先住民にとっても建国記念日は祝えるものではないでしょう。

建国記念の祭典は、ほとんどが現在の政府が主催者です。そのため、祭典は与党の政治的なパフォーマンスの場にも利用されています。その祭典に参加することが、与党を支持するものとみなされがちです。例えば、日本の沖縄において、現在の基地問題などを考えれば、祭典に参加できない方も多くでてくるのです。

近年になってどの国も移民や難民の受け入れが増えて多民族化してきています。一方、企業においても、多国籍化や自由貿易で人と物がグローバル化してきています。「特定国の建国」と「他民族化、多国籍化、グローバル化」とは、フェーズが合わないのです。このような世界状況下で、ある特定の民たちのみが受け入れる「建国記念の祝日」の祝典には、それ以外の人たちへの思いやり、配慮がより必要のように思われます。クリスマス季節の挨拶カードの表書きが、「Merry Christmas」から宗教を意識させない「Season's Greetings」や「Happy Holidays」に変わってきたように。

追記

世界の 114 国の「建国記念日」のリストがインターネット(Ref.1)にあり、そこにそれぞれの建国年も載っています。最も古いのが、日本で紀元前 660 年です。その次はズーと下って、アメリカの「独立記念日」1776 年、フランスの「パリ祭」1789 年となります。他の多くの国は、第一次世界大戦の終結年（1918 年）や第二次世界大戦の終結年（1945 年）の後になります。古いと思われるイギリスには、法律で定められた「建国記念日」（祝日）がありません。

Ref.1 Wikipedia, 建国記念日 (<https://ja.wikipedia.org/wiki/建国記念日>)